

令和3年度 関与団体点検調書

令和3年6月1日現在

団体番号	168	団体名	(株)札幌副都心開発公社		調書作成 責任者	建設部	都市計画課				
種別	株式会社				都市計画課長	渡辺 亮					
設立(登記)年月日	S49.5.1	新規・継続の別	継続		担当係等名 内線番号	基本計画係 内線 29-812					
設立経緯	札幌市の人口急増等に伴い、都市の一点集中構造の弊害が顕著になったため、周辺市町村をも対象とした副都心的開発構想が建てられ、その事業実施のため設立された。										
設立目的	当会社は、次の事業を営むことを目的とする。 ①札幌副都心開発に関連する諸施設の建設、管理、賃貸、分譲、媒介及び経営、②バスターミナルの管理及び運営、③駐車場の建設及び経営、④スポーツ、文化振興施設に関する業務、⑤たばこ、郵便切手、収入印紙、入場券、宝くじ等の販売に関する業務、⑥広告代理、各種案内に関する業務、⑦損害保険代理業務並びに自動車損害賠償保障法による保険代理業務、⑧前各号に関連又は附帯する一切の業務										
事業内容	札幌副都心開発に関連する諸施設(商業センター、オフィスビル、ホテルビル、駐車場ビル、ターミナルビル等)の建設、管理、賃貸、分譲、媒介及び経営										
所在地	〒004-0052	市町村名	札幌市	それ以下	厚別区厚別中央2条5丁目7番2号						
連絡先	TEL 011-890-2424	FAX	011-892-0100		E-mail	webmaster@arc-city.com					
URL	http://www.arc-city.com										
代表者	職名	代表取締役社長		氏名	中塚 宏隆		勤務形態	常勤	道退職者・その他の別	その他	
道の関与 (千円)	出資・出えんの 日、金額及び比率	補助金等の 総額及び比率	道職員の派遣 開始日・人数	道立施設の指定管理者業務 を行う場合はその施設の名称							
	S50.8.18	(R2決算)	(開始日)								
	30,000 3.4%	0 -		人							
組 織 (人)	区 分	常 勤	うち 道派遣	うち道 退職者	非常勤	うち 道兼職	合計	基本財産等への出資状況 出資・出えん者、金額及び比率 (千円)			
	役員	理事・取締役	4	0	0	6	0	10	筆 頭	札幌市	
	職員	監事・監査役	1	0	0	2	0	3	第2位	(株)日本政策投資銀行	300,000 34.5%
		管 理 職	10	0	0	0	0	10	第3位	(株)日本カストディ銀行	170,000 19.5%
		一 般 職	48	0	0	0	0	48	第4位	ノースパシフィック(株)	80,000 9.2%
基本財産等 (千円)	区 分	全 体	道 出 資 等 分	比 率	道 補 助 等						
	資本金	870,000	30,000	3.45%		第5位	(株)北洋銀行	76,500	8.8%		
	基金合計					第8位	北海道	43,500	5.0%		
	計	870,000	30,000	3.45%	0	備考	30,000	3.4%			
道費の状況 R3年度 当初予算額 (千円)	経費区分	道予算額		うち一般財源(道債を含む) ※備考欄は道の出資等順位が6位以下の場合に道の順位等を記載すること							
	補助金等総額	0		0							
	補助金										
	交付金										
	負担金										
R3年度 当初予算額 (千円)	委託料										
	区 分	貸 付 金	損失補償	債務保証	損失補償・債務保証総額						
	R3年度予算(限度額)				0						
	R2年度末の債務残高				0						
累 計 額	0	0	0	0							
基本財産等の計に占める損失補償・債務保証総額の割合										0.0%	

付表1

[団体番号: 168

団体名: (株)札幌副都心開発公社]

整理番号	補助金等又は貸付金の事業名	開始年度	R2節区分					道立施設の 管理運営	平成	令和	令和
			18節		12節		20節		30年度	元年度	2年度
			補助金	交付金	負担金	委託料	貸付金		決算額	決算額	決算額
								(一般財源)	(一般財源)	(一般財源)	
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
計			0	0	0	0	0	0	0	0	
								(0)	(0)	(0)	

(千円)

法人の当期支出総額			
-----------	--	--	--

(千円)

道の 財政的 関与の 状況 決算額	補助金	0	0	0
	交付金	0	0	0
	負担金	0	0	0
	委託料	0	0	0
	補助金等合計	0	0	0
	貸付金	0	0	0
総計		0	0	0
補助金等比率		-	-	-
50%以上		-	-	-

※委託料については競争性のない随意契約の額のみを記載

※一般財源については道債を含む額を記載

【仕組債の保有状況】 ※道から出えん等を受けている公益法人及び一般法人のみ記載すること。

(千円)

保有銘柄数	取得時期	償還時期	簿価額合計 (R2年度末現在)	時価額合計 (R2年度末現在)	評価損益額合計 (R2年度末現在)
					0

○ 支部を含めた内部統制機能の充実が図られているか。 ※支部を有する団体のみ記載すること。

【 はい いいえ その他 (備考) 】

(チェックポイント)

●各支部の事業や会計を把握するとともに、支部までを含めた監事監査を実施しているか。

○ 財務諸表(貸借対照表、正味財産増減計算書及びキャッシュフロー計算書)は真実な内容を明瞭に記載しているか。 ※道と連結決算の対象となる団体のみ記載すること。

【 はい いいえ その他 (備考) 】

(チェックポイント)

●適切な会計基準を採用しているか。

【会計基準の名称】

●財務諸表は、正規の簿記の原則に従って正しく記帳された会計帳簿に基づいて作成されているか。

●会計処理の原則及び手続き並びに財務諸表の表示方法は、毎事業年度これを継続して適用し、みだりに変更していないか。

●資産、負債については、法令や会計基準に則った評価を行っているか。

【財務諸表に対する注記】 ※直前の決算年度分

区分	記載の有無			備考
	はい	いいえ	該当なし	
1 継続事業の前提に関する注記				
2 資産の評価基準及び評価方法、固定資産の減価償却方法、引当金の計上基準等財務諸表の作成に関する重要な会計方針				
3 重要な会計方針の変更の理由及びその影響額				重要な会計方針を変更した場合
4 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高				
5 基本財産及び特定資産の財源等の内訳				
6 担保に供している資産				
7 当該資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高				固定資産について減価償却累計額を直接控除した残額のみを記載した場合
8 当該債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高				債権について貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合
9 保証債務(債務の保証を主たる目的事業とする法人を除く。)等の偶発債務				
10 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益				
11 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高				
12 基金及び代替基金の増減額及びその残高				
13 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳				
14 関連当事者との取引の内容				
15 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲及び重要な非資金取引				
16 重要な後発事象				
17 その他資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項				

※ 満期保有目的の債券:満期まで所有する意思をもって保有する社債その他の債券

関連当事者: (1) 当該法人を支配する法人、(2) 当該法人によって支配される法人、(3) 当該法人と同一の支配法人をもつ法人、(4) 当該法人の役員又は評議員及びそれらの近親者

補助金等: 補助金、負担金、利子補給金及びその他相当の反対給付を受けない給付金等(役務の対価としての委託費等は含まない。)

重要な後発事象: 決算日後に発生し、当該事業年度の財務諸表には影響しないが、翌事業年度以降の法人の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす会計事象

★公益法人以外の法人においては、これに準じた取扱いに努めているか。

【資産の評価】 ※直前の決算年度分					
区 分		はい	いいえ	該当なし	備 考
1	資産の貸借対照表価額は、取得価額を基礎として計上しているか。				
2	交換、受贈等によって取得した資産の取得価額は、取得時における公正な評価額としているか。				
3	受取手形、未収金、貸付金等の債権については、取得価額から貸倒引当金を控除した額を貸借対照表価額としているか。				
4	満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式については、取得価額を貸借対照表価額としているか。				子会社株式 … 議決権の過半数を保有している場合の当該企業の株式 関連会社株式 … 議決権の20%以上50%以下を保有している場合の当該企業の株式
5	満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券のうち市場価格のあるものについては、時価を貸借対照表価額としているか。				
6	棚卸資産(商品、製品、仕掛品、半製品、原材料、貯蔵品など)については、取得価額(時価が取得価額よりも下落した場合は時価)を貸借対照表価額としているか。				
7	有形固定資産及び無形固定資産については、取得価額から減価償却累計額を控除した額を貸借対照表価額としているか。				
8	資産の時価が著しく下落したときは、回復の見込みがあると認められる場合を除き時価を貸借対照表価額としているか。(※減損処理→評価差額は正味財産増減計算書に計上されているか。)				著しく下落 … 帳簿価額から概ね50%を超えた場合
★公益法人以外の法人においては、これに準じた取扱いに努めているか。					

○ 情報公開の内容が充実しているか。

【 はい いいえ その他 (備考) 】

(チェックポイント)

- 公益法人は、認定法に基づき、役員報酬等の支給基準の公開、事務所への備え置きや閲覧への対応をしているか。
- 公益法人は、認定法に基づき、業務及び財務等に関する資料を事務所に備え置き、一般の閲覧に供しているか。

★道が資本金等の4分の1以上を出資又は出えんしている法人は、その職員数や給与に関する情報を公開するよう努めているか。

★公益法人は、業務及び財務等に関する資料をインターネットにより、常に最新の状態で適切な時期に公開するよう努めているか。

★公益法人以外の法人は、業務及び財務等に関する資料の公開について公益法人に準じた取扱いに努めているか。

公開内容(公表しているものに○印を付ける)

公開情報	公開媒体	主たる事務所への備え置き	団体のホームページ	備 考
1 定款				
2 役員名簿				
3 社員名簿(社団法人のみ)				
4 事業報告書又は営業報告書				
5 決算関係書類(財務諸表)				
6 事業計画書				
7 予算関係書類				
8 役員の報酬・退職金の支給基準				
9 職員数に関する情報				
10 職員の給与に関する情報				

※9及び10については道が資本金等の1/4以上を出資又は出えんしている法人のみ記載すること

○ 財産(運用を目的とした債権及び預貯金)に関する安全な運用を徹底しているか。
 ※道から出えん等を受けている公益法人及び一般法人のみ記載すること。

【 はい いいえ その他 (備考) 】

(チェックポイント)

- 道の出えん等の運用は、安全、確実な方法、すなわち元本が確実に回収できるほか、固定資産としての常識的な運用益が得られ、又は利用価値を生ずる方法(例えば、国債、地方債、政府地方債など)で行っているか。
- 金融機関の経営状況、各金融商品の性格やリスクなど、必要な情報を把握した上で財産の運用に当たっているか。
- 財産の運用に関し、基本的な考え方や最高決定機関などを明確にした管理運用規程を策定しているか。
- 既に安全、確実とはいえない方法により運用している場合は、金利や為替、債権等の市場動向、発行体の経営状況などを常に把握し、途中売却の可能性などを検討しているか。(この場合、原則として、元本の毀損は避けること)。

★道の出えん等以外の財産の運用も、道の出えん等の運用に準じるなど慎重に行うよう努めているか。

単位:千円

	H 3 0 年 度		R 元 年 度		R 2 年 度	
運用方法 ・ 金 額	預貯金 (日常決済用の預貯金を除く)		預貯金 (日常決済用の預貯金を除く)		預貯金 (日常決済用の預貯金を除く)	
	公共債		公共債		公共債	
	その他債権		その他債権		その他債権	
運用収入						
備 考						

※公共債とは国債、地方債、政府保証債をいう。

※備考欄は運用方法の大幅な変更や運用収入の大幅な増減があった場合に記載すること。

○ 政治活動に関する寄附等は適切に取り扱われているか。

【 はい いいえ その他 (備考) 】

(チェックポイント)

- 道から補助金等や出資・出えんを受けている関与団体は、政治資金規正法により政治活動に関する寄附が制限されていることに留意しているか。
- 政治団体の主催する政治資金パーティーのパーティー券の購入を自粛しているか。

○ 団体の適正運営に関し、改善が必要として指導等を行った場合には、その内容を記載すること。

団体の健全経営

(千円)

	指標名	計算式等	元年度 (対前年比)	2年度 (対前年比)	所管部の所見																
安全性・健全性	① 正味財産増減の状況はどうか？	正味財産増減額 ※株式会社の場合は当期利益			<input type="checkbox"/> 増加傾向 <input type="checkbox"/> 横ばい傾向 <input type="checkbox"/> 減少傾向 <input checked="" type="checkbox"/> 赤字（2年度が赤字） (理由) ※減少傾向または赤字の場合 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、専門店の臨時休業や、直営部門の臨時休館の他、テナントへの賃料減額支援等の対応を行ったため																
	正味財産の増減(当期利益)は、法人の経営状況を判断するうえで最も重視される数字で、法人の事業が順調に運営されているか否かを見る基本的指標であり、増加していることが望ましい。 ※公益法人については収支相償についても留意すること	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>正味財産増減額</td> <td>214,425</td> <td>69,653</td> <td>-424,365</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	正味財産増減額	214,425	69,653	-424,365	-144,772	-494,018									
		H30年度	R元年度	R2年度																	
	正味財産増減額	214,425	69,653	-424,365																	
② 自己資本比率は改善しているか？(対前年度比)	自己資本比率=正味財産/総資産(資産)×100 ※株式会社の場合は資本/資産×100				<input type="checkbox"/> 改善している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 改善していない (理由) ※債務超過の場合は対応も記載すること																
総資産に占める自己調達した資本の割合を示す。法人の財務内容が安全かどうかを知る上で重要な指数である。高ければ高いほど良い。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>正味財産</td> <td>12,486,919</td> <td>12,556,458</td> <td>12,311,499</td> </tr> <tr> <td>総資産</td> <td>26,681,535</td> <td>26,635,395</td> <td>26,099,334</td> </tr> <tr> <td>自己資本比率</td> <td>46.8%</td> <td>47.1%</td> <td>47.2%</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	正味財産	12,486,919	12,556,458	12,311,499	総資産	26,681,535	26,635,395	26,099,334	自己資本比率	46.8%	47.1%	47.2%	0.3%	0.0%		
	H30年度	R元年度	R2年度																		
正味財産	12,486,919	12,556,458	12,311,499																		
総資産	26,681,535	26,635,395	26,099,334																		
自己資本比率	46.8%	47.1%	47.2%																		
安全性・健全性	③ 借入金に依存していないか？	借入金額			<input type="checkbox"/> 借入金を受けていない <input checked="" type="checkbox"/> 依存していない <input type="checkbox"/> 依存している (借入金を受けている理由) 設備投資期間を適切に配分するため(利益相当額は別途積立)																
	恒常的に借入金を受けていないかどうかの確認。恒常的な借入金はないことが望ましい。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>4,357,402</td> <td>4,238,302</td> <td>4,298,636</td> </tr> <tr> <td>借入金合計</td> <td>4,357,402</td> <td>4,238,302</td> <td>4,298,636</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	短期借入金	0	0	0	長期借入金	4,357,402	4,238,302	4,298,636	借入金合計	4,357,402	4,238,302	4,298,636	-119,100	60,334	
		H30年度	R元年度	R2年度																	
	短期借入金	0	0	0																	
長期借入金	4,357,402	4,238,302	4,298,636																		
借入金合計	4,357,402	4,238,302	4,298,636																		
④ 流動比率は改善しているか？(対前年度比)	流動比率=流動資産合計/流動負債合計×100				<input type="checkbox"/> 改善している <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 改善していない (理由)																
短期負債と、これを返済するのに必要な財源を比較する比率。比率が高いほど返済能力があり経営の安全が保たれていることを表す。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>流動資産</td> <td>1,107,721</td> <td>1,079,634</td> <td>788,672</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td>2,032,990</td> <td>2,034,497</td> <td>1,572,721</td> </tr> <tr> <td>流動比率</td> <td>54.5%</td> <td>53.1%</td> <td>50.1%</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	流動資産	1,107,721	1,079,634	788,672	流動負債	2,032,990	2,034,497	1,572,721	流動比率	54.5%	53.1%	50.1%	-1.4%	-2.9%		
	H30年度	R元年度	R2年度																		
流動資産	1,107,721	1,079,634	788,672																		
流動負債	2,032,990	2,034,497	1,572,721																		
流動比率	54.5%	53.1%	50.1%																		
効率性	⑤ 固定費は抑制されているか？(対前年度比)	固定費比率=固定費/経常費用×100			<input checked="" type="checkbox"/> 抑制されている(横ばいを含む) <input type="checkbox"/> 増加している (理由、対応策)																
	固定費の経常費用に占める割合をいう。この数字が高いということは効率的な運営ができていないことを意味する。 ※固定費とは人件費、地代家賃、水道光熱費、消耗品費、支払利息、減価償却費、リース料、設備費などをいう。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>固定費</td> <td>3,548,199</td> <td>3,494,154</td> <td>3,358,667</td> </tr> <tr> <td>経常費用</td> <td>4,044,884</td> <td>4,089,561</td> <td>3,896,259</td> </tr> <tr> <td>固定費比率</td> <td>87.7%</td> <td>85.4%</td> <td>86.2%</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	固定費	3,548,199	3,494,154	3,358,667	経常費用	4,044,884	4,089,561	3,896,259	固定費比率	87.7%	85.4%	86.2%	-2.3%	0.8%	
		H30年度	R元年度	R2年度																	
	固定費	3,548,199	3,494,154	3,358,667																	
経常費用	4,044,884	4,089,561	3,896,259																		
固定費比率	87.7%	85.4%	86.2%																		
⑥ 人件費は抑制されているか？(対前年度比)	人件費比率=人件費/経常費用×100			<input checked="" type="checkbox"/> 抑制されている(横ばいを含む) <input type="checkbox"/> 増加している (理由、対応策)																	
人件費の合計額が経常費用に占める割合を示す財務指標である。この人件費率が大きければ大きいほど、法人にとって人件費の負担が重いことを示している。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>447,094</td> <td>439,587</td> <td>449,331</td> </tr> <tr> <td>人件費比率</td> <td>11.1%</td> <td>10.7%</td> <td>11.5%</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	人件費	447,094	439,587	449,331	人件費比率	11.1%	10.7%	11.5%	-0.3%	0.8%						
	H30年度	R元年度	R2年度																		
人件費	447,094	439,587	449,331																		
人件費比率	11.1%	10.7%	11.5%																		
効率性	⑦ 役員人件費は抑制されているか？(対前年度比)	役員人件費比率=役員人件費/人件費×100			<input checked="" type="checkbox"/> 抑制されている(横ばいを含む) <input type="checkbox"/> 増加している (理由、対応策)																
	人件費のうち何%が役員人件費に向けられたかを示す。組織の効率性を見る指標の一つである。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>H30年度</td> <td>R元年度</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>役員人件費</td> <td>45,461</td> <td>46,552</td> <td>45,990</td> </tr> <tr> <td>役員人件費比率</td> <td>10.2%</td> <td>10.6%</td> <td>10.2%</td> </tr> <tr> <td>役員平均年収</td> <td>3,497</td> <td>3,581</td> <td>3,538</td> </tr> </table>		H30年度	R元年度	R2年度	役員人件費	45,461	46,552	45,990	役員人件費比率	10.2%	10.6%	10.2%	役員平均年収	3,497	3,581	3,538	0.4%	-0.4%	
		H30年度	R元年度	R2年度																	
	役員人件費	45,461	46,552	45,990																	
役員人件費比率	10.2%	10.6%	10.2%																		
役員平均年収	3,497	3,581	3,538																		

○ 計画的な経営が行われているか。 【 はい いいえ その他 () 】

(チェックポイント)

●中長期の経営計画や改善計画などを策定し、団体の計画的な経営を行っているか。

○ 団体の健全経営に関し、改善が必要として指導等を行った場合(債務超過や借入金的大幅な増加など)には、その内容を記載すること

団体の自立化

○ 団体の目的や実施事業に対する社会的要請に変化はないか？ また、道の施策推進における役割は明確か？ 前年度の点検調書で3つ目の選択肢(「設立時から劇的な変化があり、役割も不明確である」)を選択した団体についてはその後の対応等についても記載すること

<input checked="" type="checkbox"/> 設立時から変化はなく、役割も明確である。 <input type="checkbox"/> 設立時から多少の変化があるが、役割は概ね明確である。 <input type="checkbox"/> 設立時から劇的な変化があり、役割も不明確である。	【主な変化の状況・要因・その後の対応等】
--	----------------------

○ 道からの補助金等(補助金、交付金及び負担金)について、さらなる縮減又は廃止をすることができないか？ 10年以上の長期に渡る補助金等がある場合は主な事業の名称等を記載すること また、前年度の点検調書で1つ目又は2つ目の選択肢(「廃止が可能」又は「縮減が可能」)を選択した団体についてはその後の対応等についても記載すること ※道から補助金等を受けている団体のみ記載すること

<input type="checkbox"/> 廃止が可能 <input type="checkbox"/> 縮減が可能 <input type="checkbox"/> 廃止又は縮減は困難	【廃止又は縮減が困難な理由・その後の対応等】
【主な10年以上の長期に渡る補助金等事業の概要】 事業の名称 開始年度 <input type="text"/> 年度	

○ 道から団体に対する競争性のない契約方法による委託について競争性のある契約方法に変更することができないか？ 10年以上の長期に渡る競争性のない契約による委託がある場合は主な事業の名称等を記載すること また、前年度の点検調書で1つ目又は2つ目の選択肢(「すべて委託について競争性のある契約方法に変更が可能」又は「一部の委託について競争性のある契約方法に変更が可能」)を選択した団体についてはその後の対応等についても記載すること ※道からの競争性のない契約による委託がある団体のみ記載すること

<input type="checkbox"/> すべての委託について競争性のある契約方法に変更が可能 <input type="checkbox"/> 一部の委託について競争性のある契約方法に変更が可能 <input type="checkbox"/> 競争性のある契約方法への変更は困難	【競争性のある契約方法に変更が困難な理由・その後の対応等】
【主な10年以上の長期に渡る委託事業の概要】 事業の名称 開始年度 <input type="text"/> 年度	

○ 道からの職員の派遣状況はどうか。また、派遣職員は最小限となっているか？ 前年度の点検調書で2つ目の選択肢(「早期引揚げが可能」)を選択した団体については、その後の対応等についても記載すること ※道から職員を派遣している団体のみ記載すること

【派遣状況】 派遣人数 <input type="text"/> 名 道からの派遣開始・終了予定時期 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 ~ <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 派遣の目的	
<input type="checkbox"/> すでに最小限となっている <input type="checkbox"/> 早期の引揚げが可能	【最小限と考える理由・その後の対応等】

<p>○ 今後も道からの出資・出えん等を継続する意義や必要性はあるか？ 前年度の点検調書で3つ目の選択肢(「道からの出資・出えん等の必要性は薄れている」)を選択した団体については その後の対応等についても記載すること ※道から出資・出えん等を受けている団体のみ記載すること</p>	
<input checked="" type="checkbox"/> 道からの出資・出えん等の継続が必要 <input type="checkbox"/> 道からの出資・出えん等の意義は減少したが、一定 程度の出資・出えん等の継続は必要 <input type="checkbox"/> 道からの出資・出えん等の必要性は薄れている	<p>【継続が必要な理由・その後の対応等】</p> <p>札幌市の一点集中型都市構造を改善し、厚別地域に隣接の市町を対象とした副都心的地域開発の推進に道が支援することで、副都心部の商業集積やまちづくりにつながるため。また、道が定めている札幌圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針とも関連していることから、出資の継続が必要である。</p>

<p>○ 道からの出えん等については、その目的に沿って活用されているか？ 前年度の点検調書で3つ目の選択肢(「出えん等の目的に沿わない活用をしている」)を選択した団体については その後の対応等についても記載すること ※道から出えん等を受けている公益法人等のみ記載すること</p>	
<input type="checkbox"/> 出えん等の目的に沿って活用している <input type="checkbox"/> 一部については出えん等の目的に沿わない活用も見ら れるが概ね出えん等の目的に沿って活用している <input type="checkbox"/> 出えん等の目的に沿わない活用をしている	<p>【出えん等の目的に沿わない活用をしている理由と返戻の方向性・その後の対応等】</p>

<p>○ 道からの出資、出えん等の必要性が薄れている団体について、その出資・出えん等を売却又は返戻をすることができないか？ 前年度の点検調書で1つ目又は2つ目の選択肢(「売却又は返戻が可能」又は「一部について売却又は返戻が可能」)を選択 した場合はその後の対応等についても記載すること</p>	
<input type="checkbox"/> 売却又は返戻が可能 <input type="checkbox"/> 一部について売却又は返戻が可能 <input type="checkbox"/> 売却又は返戻は困難	<p>【売却又は返戻が困難な理由・その後の対応等】</p>

<p>○ 道の施策推進などのために団体との意見交換や情報共有等を行っているか？</p>	
<input type="checkbox"/> 定期的又は随時に意見交換等を行っている <input checked="" type="checkbox"/> 必要な場合は意見交換等を行っている <input type="checkbox"/> 意見交換等は特に行っていない	<p>【意見交換等を行っている場合はその主な内容】</p> <p>定時株主総会に出席し、財産・損益等について情報共有している。</p>

<p>○ 道からの補助金等、競争性のない契約方法による委託料、派遣職員数、出資・出えん金等が増加した場合又は増加する 予定がある場合にはその内容を記載すること</p>	
<p> </p>	

<p>○ 前年度の点検及び現地調査において指導事項がある場合にはその改善状況を記載すること</p>	
<p>【指導事項】</p>	<p>【改善状況】</p>
<p> </p>	

<p>○ 本点検調書の作成に当たり団体へのヒアリングを実施した場合はその方法と実施年月日を記載すること</p>	
<p>ヒアリングの方法</p>	<p>メール又は電話等によりヒアリングを実施した。</p>
<p>ヒアリングの実施年月日</p>	<p>令和 3 年 7 月 6 日</p>